Club BUSINESS

CONTENTS

パネルディスカッション報告 第19回定例セミナー報告

10~11月の定例セミナーご案内

. 月 16

H

9月の活動・参加申込書

Vol.13 2008年9月1日

■発行・編集/㈱農業技術通信社『農業経営者』読者の会 事務局(担当:長谷川)

民雄氏は、米麦に水耕ミツバを複合さ 確立させている。異なる2業態はトラ 労働力を周年雇用できる経営モデル せて天候面や金銭面のリスクを抑え ブルを支え合う経営の保険だという。 群馬県前橋市衛三輪農園代表の三輪

セミナーにて「土地利用型から施設園 読者の会では第18回定例 収入が年2回の米麦に対し、

はこまめに収入があるのも魅力だ。 秋田県大潟村街正八代表の宮川正和 施設園芸

開について討論を行なった。

芸へ」をテーマにパネルディスカッショ き、シナジー効果のある複合経営の展 した農業経営者3人をパネリストに招 ンを開催。異業種から施設園芸に参え (有)三輪農園 代表取締役 三輪民雄氏 てハウスの地力にしている。 氏の場合、 城県茨城町街アクト農場代表の関治男 コスト削減に結びついたと指摘する。 氏は、10年前将来性に疑問を感じてコ から起算して、そこから出る堆肥を処 かった作業上の小さなムダに気付き、 入のシナジーとして以前は意識しな メをやめ、野菜や花卉に参入した。参 独立資金と考えて 産地づくり交 牛の肥育から施設園芸に参入した茨 畜舎から出る糞を堆肥にし 〈付金は 牛の頭数 (有)正八 宮川正和氏 代表取締役

出ないことをやるから

代表取締役 関治男氏

参入するなら、補助金が出ない業種

『かるんだと思います。これから新規

方が参入しやすく、儲かるのでは?」

は補助金が出ないことばかりやるから

に、葉物にはつかない。でも儲からな 地元ではメロンには補助事業がつくの

い業種だから補助金が出るんです。私

理できる面積を確保する、という緻密 な複合経営だ。ローダーやユンボなど 畜産用機械を畑作業に活用している。 その後話題は、 参入時の品目選びや

初期投資としての補助金に拡がった。 販路確保、最近のコスト高への対策

転作した時に出る産地づくり交付金を

野菜複合型経営モデル事業支援に挙手

元手にした宮川氏、群馬県の稲・麦

した三輪氏、各々事例を紹介した。

最後に関氏がこう締め括った。「私の

読者の会パネルディスカッション報告

|地利用型から施設園芸へ

三輪民雄氏×宮川正和氏×関治男氏



何

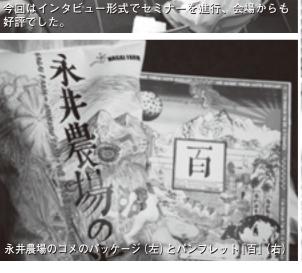
一年先も素敵な農場であるために

S

農場は人が創る~農業でプライドをどう表現できるか~ 有永井農場 専務取締役

第19回定例セミナー報告

永井進氏





想で農場づくりを進めている。 は長野県東御市で酪農と稲作の複合経 役永井進氏にお話をいただいた。同氏 ト」でおなじみの何永井農場専務取締 載中の「永井進の農場スタイルノー 営に取組みながら、若手ならではの発 8月8日の定例セミナーは、 本誌連

載開始のきっかけになっている。 が農業生産法人?」と驚き、それが連 農場の会社案内を集めているうちに、 進行した。もともと土井がいろいろな 井が司会となり、インタビュー形式で 農場に足を運んでいる本誌編集部の土 永井農場のパンフレットを見て「これ 今回のセミナーは、取材で毎月永井

ると、パートナー企業との対談記事 それにしても費用対効果が気になる。 コメの栽培方法へのこだわり、 斬新で洗練されている。ページをめく ど雑誌のような感覚で読んでしまう。 「売上の1%は農場のブランディングに 確かに同社のパンフレット『百』は などな

売上高の1%が ブランディング予算

タッフが、農業に携わっていることや 誇りを持てるようにしたい 永井農場で働いていることに、 農場作りの根底にあります。うちのス れることもありました。それなら僕が 素敵な農業を作ろう、と思ったことが 「僕が就農した頃の農業は3Kと言わ 自信と

パンフレットには明治35年創業の味

作りが大切、と永井氏は語る。

は、お互いを活かして高めあえる関係 だ。異業種とのコラボレーションで コシヒカリで作る米麹を使った商品 井農場が栽培する有機減農薬栽培米の レーション商品も紹介されている。永 農場のこだわりみそ』のようなコラボ 噌の老舗『すや亀』が製造する『永井

とにもなっているわけです」 達の価値を引っ張り上げていただくこ 名前が入っていたりすれば、それは私 すや亀さんは老舗の味噌屋として有名 です。すや亀さんの製品に永井農場の んどネームバリューがありませんが、 「永井農場は長野県内でも、まだほと

農場の設計を進めています」 あるために、今どうあるべきか考えて インを見直していく予定だ。 来年は、景観も含めた農場全体のデザ 境づくりにも取り組む。その一環とし プトにして、何十年先も素敵な農場で いる人が素敵だと思える農場をコンセ て事務所はログハウス風に建築した。 農場では、スタッフが働きやすい環 ても役立っています」 にも置いてもらい、農場のことを知って けて5年間何もしないより200万円を いただくコミュニケーションツールとし レットを更新しています。取引先の店頭 毎年かけるような使い方で、毎年パンフ かける予算と考えています。1千万円か

2008年10~11月 定例セミナー のご案内

第23回 10月10日(金) 16:00~18:00

会場:㈱農業技術通信社内セミナールーム

生産調整の廃止と直接支払いの導入が 日本農業を再生する

農水省OBが、あるべき農政を喝破! まず生産調整の撤廃だ。コメの生 産量を増やし、米価を下げてコメ市場の拡大を図る。生産増とコスト減を 実現すれば、コメ粉、飼料米、工業原料など国産米の需要は拡大できる。 次に、主業農家を育成する構造改革。一定規模以上の農家には面積に応じ た直接支払いを交付して、農地を副業的農家から主業農家に集める!

(独)経済産業研究所 上席研究員

_氏 (やました・かずひと)



東京大学卒業、同博士(農学)。 1977 年農林省入省。ミシガン大学 大学院を経て、02年国際部参事官、 OECD 農業委員会副議長を最後に 退官。03 年経済産業研究所上席研 究員に着任、現在に至る。主な研究 分野は、食料・農業政策、中山間地 域問題、WTO 農業交渉、貿易と環 境、貿易と食品の安全性など。

第24回 10月24日(金) 16:00~18:00

会場:㈱農業技術通信社内セミナールーム

誰が「比内地鶏」を創るのか?

~地域ブランドのあるべき姿を問う~

昨年秋、食肉加工業者による比内地鶏の偽装事件が告発された。秋田県は 急遽、ブランド認証制度の準備を進めたが、7割近い顧客に「比内地鶏」 として選ばれてきた黎明舎の雛と秋田高原フードの比内地鶏は、病気リス クを減らすためのケージ飼いを理由に、そこから除外されようとしてい る。同社の大塚智哉氏が、今、地域ブランドのあるべき姿を問う。

(有)秋田高原フード 営業担当

大塚智哉氏(おおつか・ともや)



東海大学卒業後、物流会社に入社。 2002 年예秋田高原フードに転職。 妻の智子氏は同社創業者である故・ 佐藤黎明氏の長女。以来、義母であ る佐藤信子社長、妻、14 人の従業員 とともに、比内地鶏の育成事業に取 り組む。同社では営業として各地を 飛び回り、同時に県との交渉も担っ ている。

第25回 11月7日(金) 16:00~18:00

会場:㈱農業技術通信社内セミナールーム

日本の農林水産物を愛するお客様のために ~1200張の『緑提灯』が灯るまで~

「日本産食材の使用量が50%を超えるお店を『緑提灯』でアピールしよ う!」という緑提灯運動は、2005年春に北海道小樽の1号店に始まっ た。その後、参加店舗は全国に広がり、現在は1200店舗を越えている。 ユーモアのある表現と方法で人々を巻き込んだ運動の仕掛け人、丸山清明 氏が1200張の緑提灯が灯るまでを語る。

(独)農研機構理事 中央農業総合研究センター所長

丸山清明氏(まるやま・きよあき)



1947 年生まれ。69 年東京大学農学 部卒。74 年同大学農学系大学院修 了(農学博士)。同年農林水産省北陸 農業試験場。97 年農林水産省農林 水産技術会議事務局研究開発課長。 以後、(独)農研機構作物研究所長、 同北海道農業研究センター所長、農 林水産技術会議事務局研究総務官 等を歴任。2006年から現職。

第26回 11月28日(金) 16:00~18:00

会場:㈱農業技術通信社内セミナールーム

畑作の技術で水稲を! 乾田直播への挑戦

稲作経営を抜本から変える革新技術として注目される乾田直播。海外マー ケットへの進出さえも握るこの技術は、稲作経営に携わる者にとって、無 視できない存在になりつつある。グレーンドリルを用いた播種体系によ り、コスト半減を目指した体系化試験を昨年から実施している岩手県花巻 市の盛川周祐氏が、今年の結果を報告する。

郁盛川農場 代表

盛川周祐氏(もりかわ・しゅうすけ)



PROFILE

1951 年岩手県生まれ。弘前大学理 学部卒業後、就農。当初は稲作がメ インだったが、20年ほど前から転 作田を利用した畑作にシフト。作目 は面積順に小麦、大豆、水稲、ジャガ イモ、ハトムギなど合計 50ha。水稲 乾田直播は今年4年目で面積は3 ha。本誌「大規模輪作堂農のための 乾田直播技術」に好評連載中。

2008年9月の活動 (定例セミナー

◎翌日 9 月 5 日(金)13:30~15:30 には、日本モンサント㈱茨城・河内研究農場にて、遺伝子組み換え作物 圃場見学会を実施します。あわせてご参加下さい。※当日は JR 常磐線佐貫駅から送迎バスをご用意します。

9月4日(木) 16:00~18:00 会場:㈱農業技術通信社内セミナールーム

小島正美氏(こじま・まさみ)

遺伝子組み換え作物のリスク情報管理

~消費者の意識をいかに変えるか~

遺伝子組み換え作物について、食の不安を煽るようなメディアが氾濫し ている。ところが栽培現場を本気で取材している記者は少ない。いたず らに不安を増幅するのではなく、どのようにリスク情報を消費者に伝え るのか。GM先進国を取材した最新情報をもとに、メディア・行政・農業 者など多様な視点から消費者の意識をいかに変えるか提案する。



毎日新聞編集委員

1951 年愛知県生まれ。愛知県立大 学卒業後、毎日新聞社入社。松本支 局、千葉支局などを経て、現在は東 京本社生活家庭部編集委員。主に環 境や健康、食の問題を担当する。著 書に『リスク眼力』(北斗出版)など。

第22回 9月26日(金) 16:00~18:00

会場:㈱農業技術通信社内セミナールーム

ファーミング・エンターテイメント

~腹ではなく心を満たす農業ビジネス~

土を耕し、肥料を入れ、種を播き、自然に実が大きくなって収穫すると いうのは、農家にとって当たり前の行為だろう。そんな単純な作業その ものを、体験農園に来るお客様は新鮮な感覚で受け取ってくれる。農業 に感動や癒しが求められている今、体験農園を新しいビジネスとして進 化させた白石氏が、心を満たす農業のあり方を提案する。

体験農園「大泉 風のがっこう」園主

白石好孝氏(เอเบเ-๘เたか)



PROFILE

1954 年東京都練馬区生まれ。77 年 東京農業大学卒業、1 年後に就農。 97 年市民参加型の体験農園「大泉 風のがっこう」の運営を始める。 2003 年 NPO 法人「畑の教室」を設 立。著書に『都会の百姓です。よろし く』(コモンズ)、共著に『体にやさし い・おいしい野菜のつくり方一農 家のコツ教えます』(西東社)。

②セミナー参加申込 ■参加を希望する項目に☑して、必要事項をご記入下さい。 □ は で	○定期購読申込 ■いずれかに「ひして、必要事項をご記入下さい。
〈セミナー〉 〈セミナー終了後の懇親会〉 □ 9/4 (木) 小島正美 氏 (16:00~18:00) □ 参加 (18:00~20:00) □ 9/5 (金) 遺伝子組み換え作物圃場見学会 (13:30~15:30)	□ 1 年(12 冊) 18,000 円 送料サービス! □ 2 年(24 冊) 33,000 円
□ 9/26 (金) 白石好孝氏 (16:00~18:00) □ 参加 (18:00~20:00) □ 10/10 (金) 山下一仁氏 (16:00~18:00) □ 参加 (18:00~20:00) □ 10/24 (金) 大塚智哉氏 (16:00~18:00) □ 参加 (18:00~20:00) □ 11/7 (金) 丸山清明氏 (16:00~18:00) □ 参加 (18:00~20:00) □ 11/28 (金) 盛川周祐氏 (16:00~18:00) □ 参加 (18:00~20:00) ※セミナー受講料は定期購読者無料、一般参加者 5,000 円です。 ※セミナー終了後には、懇親会(会費別途)を予定しております。	お得な3,000円割引! 3年(36冊) 45,000円 お得な9,000円割引! ※本誌セミナー(年22回)参加料込 (一般5,000円/回) ※本誌セミナー全音声ダウンロード (年22回)込(一般不可)
○共同出展資料請求 □ FOODEX JAPAN2009 (2009/3/3~3/6開催)	
お名前 会社名 農場名	TEL
E-mail	FAX
・ で住所 〒	

お申込方法 FAX **0120-410-359**まで送信してください。

『農業経営者』HP http://www.farm-biz.co.jp/ からもお申込できます)

お問合せ/(株)農業技術通信社「農業経営者」読者の会事務局TEL 0120-555-184